



2019年1月7日

記者各位

出光興産株式会社

当社社長 木藤俊一 年頭の挨拶について

新年おめでとうございます。

本年は30年続いた平成最後の年であり、新しい元号のもとで新たな時代が始まります。当社にとっても昭和シェル石油との経営統合を通じて歴史に新たな1ページを刻む年となります。

平成とはどういう時代であったのか振り返ってみます。日本にとっても当社にとっても大きな「変革」の時代であったと言えると思います。

日本にとっての平成は、まずバブル崩壊とその後長く続いたデフレからの脱却に苦しみもがいた時代でした。平成9年に始まった金融危機は、大手金融機関の破綻を招き、13行あった都市銀行が3メガバンク体制に集約されました。

人々の暮らしの中では、IT化の急速な進化がコミュニケーションツールやライフスタイルを大きく変化させました。インターネットの入口がパソコンだけであった時代から、携帯、スマートフォンへと進化を遂げ、今では膨大なデジタルデータが、世界を瞬時に駆け巡り、全く新しい価値を生み出し続けています。

石油業界では、平成8年の石油製品の輸入を皮切りに自由化の時代を迎えましたが、人口減少やエコカーの普及等を背景として、平成12年を境に石油製品の需要は減少局面に移行しました。供給過剰な状況下において、自由競争は過当競争に陥り、その後の外資の資本引き揚げ等により、13社あった石油元売り会社は大手3社グループに集約されました。そして平成最後となる今年、当社と昭和シェル石油が統合新社をスタートさせることとなります。

一方、当社にとっての平成は、2兆円を超える多額の有利子負債を抱えた危機的状況からの脱却に始まりました。そこから自力で負債を削減し、東証一部上場を果たしたのが平成18年の10月のことです。これは当社の社員一人ひとりが危機感を持ち、新たな方向性に対し一丸となって取り組む強い意志・和の精神があったからこそ成し得た難業であったと言えます。その後徳山の原油処理停止に代表される燃料油・基礎化学品事業の再構築と競争力強化、ベトナム・ニソン製油所をはじめとする海外事業の拡大がありました。特に社運を賭けて取り組んだニソン製油所稼働への挑戦は、足掛け14年がかりで大変な苦労の連続でしたが艱難を乗り越え、平成30年11月14日に商業運転を開始しました。12月23日には、ベトナム・クウェート、日本各国の国賓、出資会社の関係者による盛大なオープニングセレモニーが行われ、フック首相は「ニソン製油所の完成により国内需要の8割を賄うことができる。非常に喜ばしく意義深いものだ。」との謝辞を述べられました。ピーク時には250名の社員が現地に出向き、1,000名を超えるベトナム人に技術の伝承を行い、出資のみにとどまらず、ベトナム人の手によるベトナムの経済成長に寄与したいと必死に取り組んできました。まさに出光らしい仕事の仕方であり、当社の社員の力を私は改めて誇りに思います。

また、石油開発事業の再構築、石炭事業の競争力強化、再生可能エネルギー事業の立上げ、潤滑油・機能化学品・電子材料・アグリバイオ等の技術立脚型事業の育成等、持続的な成長基盤を作るべく、事業構造改革を進めてきました。更に、リチウム電池材料等の新しい事業の芽も育てています。これらは、当該事業部門のみならず、研究開発・知的財産、安全環境・品質保証をはじめとするコーポレート各部門のサポートがあったからこそ、推し進められたものです。

同時に多くのパートナー企業との事業経営にも取り組んできました。本年4月の昭和



シェル石油との経営統合は、まさにその集大成と言えます。

昨年10月、統合新社のビジョンとして「私たちは、ダイバーシティ&インクルーシブネスをもとに、環境・社会と調和を図りながら、お客様・ステークホルダーとともに、新たな価値創造に挑戦し続ける日本発のエネルギー共創企業です」を掲げました。

このビジョンには、多様性を尊重し「人の力」の可能性を信じる、という当社がこれまで実践してきた「人間尊重」の考えを基軸に、皆が一致団結して社会的使命を果たし、新たな価値をお客様・ステークホルダーと共に創り出していく企業体になっていこう、という想いを込めています。

ポスト平成のこれから先30年は、これまで以上に予測困難な激動の時代になるでしょう。そのような中、明らかであるのは、現在の延長線上に当社の未来はなく、事業構造の変革を一段と進めていかなければならないということです。

当社の社員が足元で取り組んでいる事業の強化に徹底して取り組みつつ、新たな商品・サービスを開発する、あるいは将来の布石となる次世代技術を基に社会のニーズに応える新事業を創出する等、あらゆることに挑戦し続けなければなりません。それには、開発や創出に取り組む時間を捻出することが必要です。そのための業務の効率化にも真剣に取り組まなければなりません。これらは決してたやすいことではありませんが、乗り越えるべき壁が高ければ高い程、それに挑む人間は大きく成長するので

私には、事業の究極の目的は、尊重される人を育成することに尽きると確信しています。当社は「事業を通じて人を育てる」ことを目的としてきた会社です。これからも「人が中心の経営」であることに変わりはありません。

先行き不透明で困難な時代は、寧ろ当社にとっても従業員にとっても、大きく飛躍するチャンスとなるでしょう。今回の経営統合は、まさに人が育ち、当社が更に進化できる絶好の機会になると私は信じています。

4月から昭和シェル石油の皆さんと一緒に働くことになります。私は、統合新社は、出身母体に捉われず、分け隔てなく、全員に活躍していただける会社になりたいと思っています。それには、出光の従業員はもちろんのこと、昭和シェル石油の皆さんにも安心して生き活きと働いていただくことが大切です。他社との協業ということでは、当社はこれまでも、出光クレジットやアストモスエネルギー、プライムポリマー等の実績があります。どの事業においても当社の社員は主体的かつ相手の良いところを受け入れ、しっかり仕事をしてきました。

これからも当社は、多様な価値観を持つ「人の力」を結集し一人ひとりが能力を最大限発揮してもらうことを何よりも大切にしていきます。

30年後も隆々とした企業であり続けるために、失敗を恐れず果敢に挑戦し続けながら、共に力を合わせて新たな歴史を創ってまいります。

以上

～ お問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報室広報課(内山) TEL:03-3213-3115

URL <http://www.idemitsu.co.jp>